

広報資料
(経済同時)

令和6年1月17日
京都市



安全を確保するため、開業当初から40年以上使用した車両を更新しています。

グッドデザイン賞、ローレル賞をダブル受賞した20系車両に是非御乗車ください！！



交通局高速鉄道部高速車両課
電話：075-863-5264
産業観光局
クリエイティブ産業振興室
電話：075-222-3337



京都の伝統産業
Traditional Industries of Kyoto



地下鉄烏丸線20系車両(第5編成)の 営業運行の開始



【「おもいやりエリア」の伝統産業品の展示は「京銘竹・京竹工芸」、「京七宝」です！！】

京都市交通局では、現行の地下鉄烏丸線車両20編成のうち、**開業以来40年間使用し老朽化した9編成について、安全確保のため**、令和3年度から令和7年度にかけて20系車両に更新予定であり、現在、4編成が営業運行しています。

この度、第5編成の営業運行開始日が決定しましたので、お知らせします。

20系車両は、**伝統産業を身近に感じてもらい、京都らしい地下鉄車両とするために伝統産業の活用を図っており**、第5編成においても車内装備品である標記銘板及び釘隠しに新たなデザインを採用するとともに、2か所の「おもいやりエリア」の展示スペースにそれぞれ京都の伝統産業品である「京銘竹・京竹工芸」及び「京七宝」を飾り付けています。

1 第5編成の営業運行開始日時

令和6年1月30日(火)午後3時5分 竹田駅発

※運行ダイヤの詳細は交通局のホームページの「新型車両☆特設情報館」(参考1)でお知らせします。

※当日の列車運行の状況によっては、運行時刻が変更となる場合がございます。

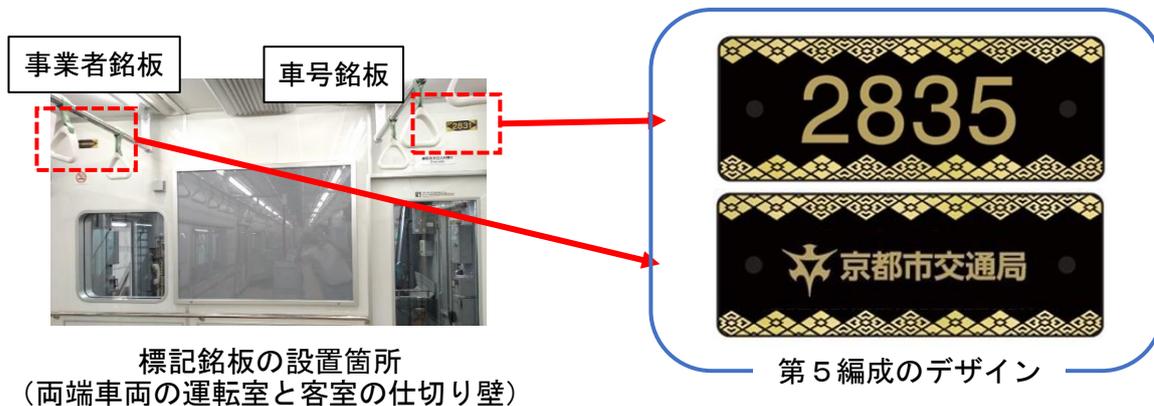


地下鉄烏丸線20系車両

2 内装デザインの変更点

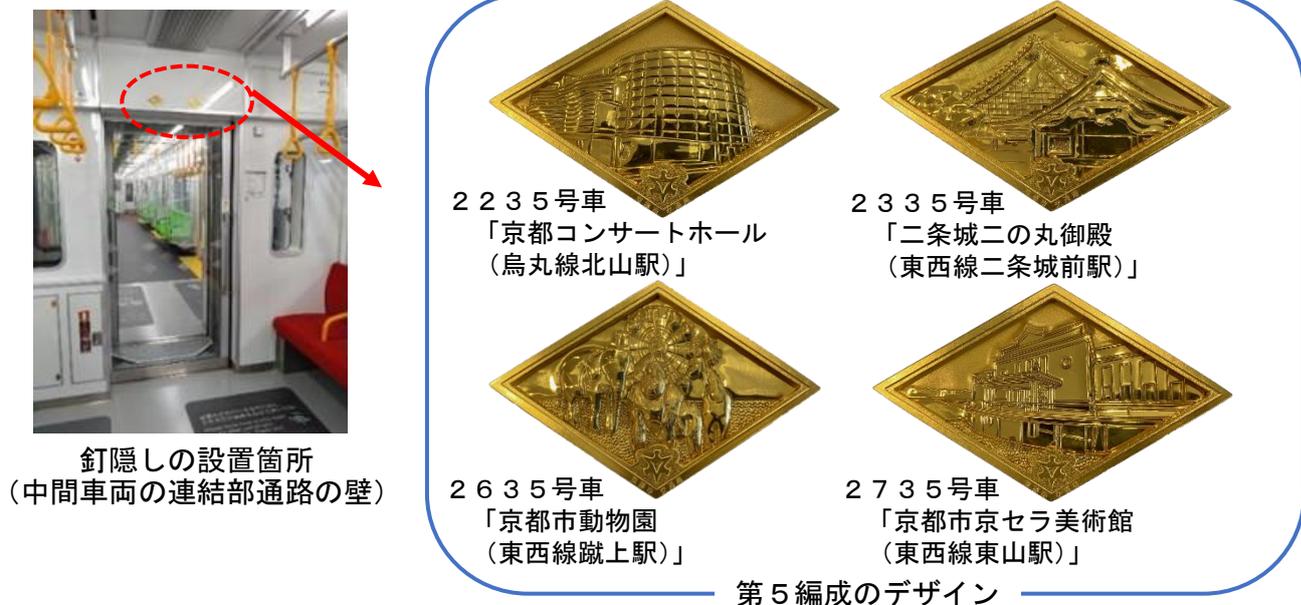
(1) 標記銘板(車号・事業者)

「京象嵌(きょうぞうがん)」の技法を活用した標記銘板(事業者・車号)については、伝統文様である「幸菱(さいわいびし)」の基本の柄はそのままに、編成ごとにデザインを変更することとしています。第5編成では、幸菱そのものの形状が浮かび上がるように配置し、リズムカルにまとめたデザインとしました。



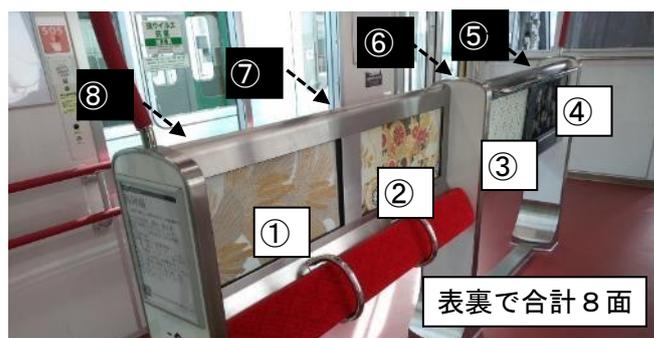
(2) 釘隠し (くぎかくし)

「金属工芸」の技法を活用した「釘隠し」については、編成ごとにデザインを変更することとしています。第5編成では、「地下鉄でおでかけ (地下鉄沿線の京都市関係施設)」をテーマとして、「京都コンサートホール (烏丸線北山駅)」、「二条城二の丸御殿 (東西線二条城前駅)」、「京都市動物園 (東西線蹴上駅)」、「京都市京セラ美術館 (東西線東山駅)」をモチーフとしたデザインとしました。



(3) 20系車両車内における京都の伝統産業品の飾り付け

編成ごとに伝統産業品を変更することとしており、第5編成では「京銘竹・京竹工芸」、「京七宝」を飾り付けます。



「おもいやりエリア」の立ち掛けシートへの伝統産業品の飾り付け (写真は第1編成)

第1編成から第5編成までの活用実績

編成	2100号車	2800号車
第1編成	西陣織	京友禅
第2編成	京仏具	京焼・清水焼
第3編成	京扇子	京漆器
第4編成	京鹿の子絞	京表具
第5編成	京銘竹・京竹工芸	京七宝

ア 京銘竹・京竹工芸の飾り付け（2135号車）

京銘竹とは、京都で生産された良質の竹を京都ならではの技法で加工した白竹（しらたけ）、図面角竹（ずめんかくちく）、亀甲竹（きっこうちく）、胡麻竹（ごまだけ）の4種類を言います。京都産の竹を素材に伝統技法を用いて作られた小物が京竹工芸品です。「おもいやりエリア」には、京銘竹を一部使用した垣根、戸及び京竹工芸の代表的な編み目の実物を紹介します。



① 柵割（まさわり）パーティション



② 細竹面格子（ほそたけめんごうし）



③ 枝折戸（しおりど）



④ 竹枝穂垣（たけえだほがき）



⑤ 網代編（あじろあみ）



⑥ やたら編



⑦ 輪弧編（りんこあみ）



⑧ 柵割（まさわり）パーティション

「おもいやりエリア」に飾り付ける「京銘竹・京竹工芸」のデザイン（イメージ）



京都府竹産業振興連合会からのコメント

日本古来より存在する竹を用いて作る伝統的技法の竹籠と竹垣。現代的な感覚で作った柵割、面格子など竹は様々な表情を見せてくれます。古くて新しい竹の魅力をぜひお近くで御覧ください。

【御協力いただいた方々】（敬称略）

京都府竹産業振興連合会 電話：075-861-1712

京都竹材商業協同組合 電話：075-441-3981 URL：<https://kyoto-takegumi.or.jp>

京都竹材商組合 電話：075-925-5826

京都竹工芸品協同組合 電話：075-561-3624

※ 素材については無償で御提供いただいております。

イ 京七宝の飾り付け（2835号車）

七宝（しっぽう）は、銀・銅の金属の上にガラス質の釉薬（ゆうやく）をのせて、高温で焼き付ける金属工芸です。京都で作られている七宝は、安土桃山時代に京の公家文化の中で生活を彩る産業として華開き、宮殿の釘隠し、襖（ふすま）の引き手等のさまざまな作品が作られました。明治時代には釉薬が改良され、現在は工芸品や額、アクセサリー等が作られています。「おもいやりエリア」には、装・食・和・飾・住・楽・詠（あつらえ）の各テーマに沿った実物作品を紹介します。



実物

① 概要紹介



実物

② 装（イヤリング、ネックレス等）

手作業で作られた京七宝の繊細な美しさを御覧いただけます。



実物

③ 食（お皿、スプーン等）



実物

④ 和（帯留め、懐中時計等）



実物

⑤ 飾（絵画）



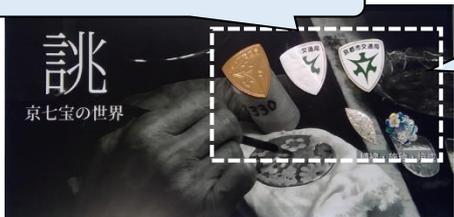
実物

⑥ 住（襖（ふすま）の引手）



実物

⑦ 楽（ブローチ）



実物

⑧ 詠（特注エンブレム）

「おもいやりエリア」に飾り付ける「京七宝」のデザイン（イメージ）

京七宝協同組合からのコメント



七宝は世界では紀元前にはじまり、日本では室町時代に京都で栄えました。京七宝は公家文化の美意識を継承して、今日まで続いている工芸です。様々な京七宝がシーンに応じて展示されていますので、御覧ください。

【御協力いただいた方々】（敬称略）

京七宝協同組合 電話：075-634-3679

URL：<https://kumiai.hiromi-art.jp/index.html>

※ 素材については無償で御提供いただいております。

(参考1) 新型車両全般に関する情報及び新型車両に活用した伝統産業に関する情報は、交通局のホームページでお知らせしています。

- 新型車両全般、運行ダイヤなどに関する情報「新型車両☆特設情報館」



【二次元コード】



HP <https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/0000288153.html>

新型車両特設情報館 で検索

- 新型車両に活用した伝統産業に関する情報



【二次元コード】



HP <https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/0000288476.html>

伝統産業素材・技法の活用 で検索

(参考2) 新型車両の導入に関する交通局の考え方について

Q1 なぜ、この時期に車両更新するの？

A1 現行の地下鉄烏丸線車両20編成のうち、開業以来40年以上使用し老朽化した9編成について、安全確保のため、令和3年度から令和7年度にかけて新型車両(20系)に更新することとしております。

Q2 車両更新による主な改良点は？

A2

- ・車体構造の強化等により安全性が向上
- ・省エネ化による消費電力削減(現行車両比約30%減)
- ・床面とホームとの段差を低くし、車椅子スペースを充実するなど、バリアフリー化を推進

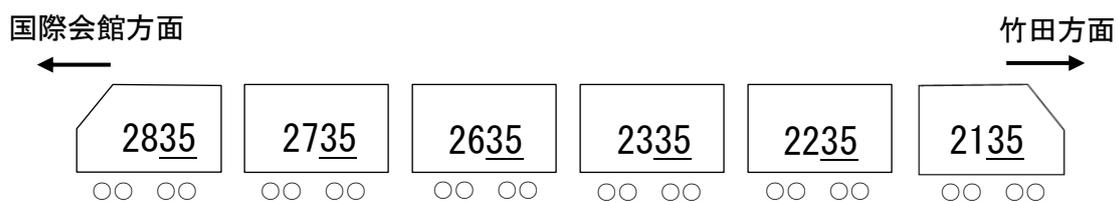
Q3 伝統産業の活用に費用を掛けすぎているか？

A3 伝統産業をより身近にし、業界全体の振興に繋がりたいという伝統産業関係者と京都らしい地下鉄車両としたい交通局のお互いの思いが一致して実現した取組です。一部は、事業者の御厚意により無償提供いただき費用を軽減しています。また、車両全体についても、廃棄車両から一部の装置を再使用するなど、出来る限り費用を抑える工夫を行っています。

(参考3) 20系車両導入までの経過・今後のスケジュール

平成24年度	新型車両導入のため、他の鉄道事業者へのヒアリングを実施し、設計に着手
平成29～30年度	「地下鉄烏丸線車両の新造にかかるデザイン懇談会」開催(計5回)
平成31年3月	市民、御利用者の皆様の投票にて外観・内装の最終デザイン決定
令和元年8月	契約・設計開始(9編成分)
令和2年4月	製造開始
令和3年7月	1編成目搬入(竹田車両基地) ※以降、各機器の調整・機能検査、試験運転等実施
令和4年3月26日	第1編成の営業運行を開始
令和4年6月21日	第2編成の営業運行を開始
令和4年10月7日	「2022年度グッドデザイン賞」受賞
令和4年11月18日	第3編成の営業運行を開始
令和5年5月25日	「2023年ローレル賞」受賞
令和5年9月27日	第4編成の営業運行を開始
令和6年1月30日	第5編成の営業運行を開始
令和6年度～7年度	各年度2編成ずつ導入予定

(参考4) 20系車両の車両番号(第5編成)



車両番号4桁の数字について、千の位が20系車両の車系を示す「2」、百の位が車種を示す数字、下2桁は製造番号になっており、20系は第31編成からスタートのため、「35」が新車の第5編成となります。